

平成30年度 中央区立京橋築地小学校 自己評価報告書

学校名：中央区立京橋築地小学校 所在地：中央区築地2-13-1

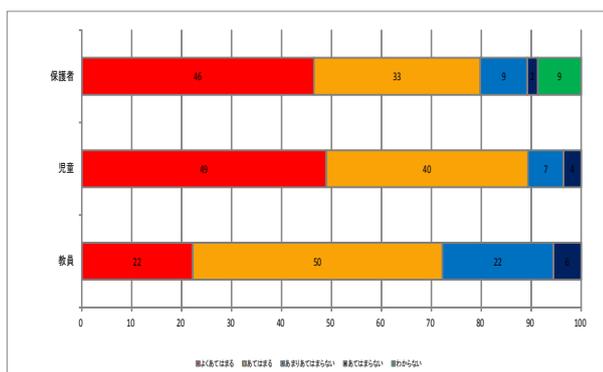
校長名：浮津健史

児童数：272名 学級数：10学級 教員数：20名 職員数：3名

1 重点目標の達成状況及び取組状況

※アンケート回答数 保護者：143 児童(4～6年)：142 教員：18

重点目標1：丈夫な体とたくましい心を育てる



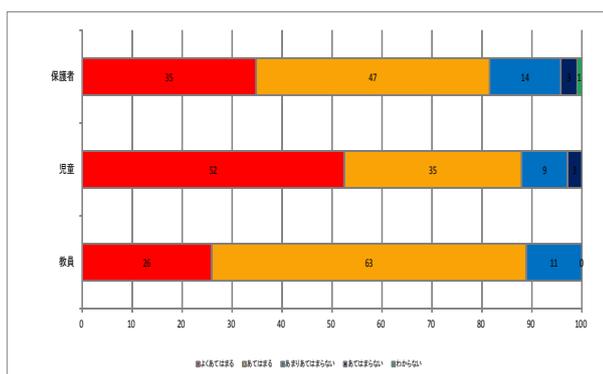
保護者アンケートでは肯定的評価が89%と昨年度より5ポイントほど下がり、「わからない」の回答がほぼその分増えています。自由記述のご意見で縄跳びや持久走への取組が不十分であるとのこと指摘もありました。

縄跳びに関しては、プロによる指導、縄跳び検定の期間の設定や縄跳びデーの実施など、意識的に縄跳びに取り組める場の設定を行いました。さらなる工夫をまいります。持久走に関しては、昨夏は猛暑のため、運動会の1100mや持久走週間の中止をいたしました。1100

m走の実施に関しましては運動会アンケートでも賛否さまざまなお意見をいただきました。練習から当日までの児童の健康と安全を最優先に、今後の方策を検討してまいります。

体力調査の結果は、全ての学年で体力合計点が全国平均を上回り、昨年度より大きく向上しました。個々の項目で見ると、握力と筋持久力(上体起こし)に課題が見られます。日常的な取組の継続でバランスのよい体力の向上が図れるよう、今後も努めてまいります。

重点目標2：言葉の力を育てる



アンケートの肯定的評価は保護者82%、児童87%で、昨年度とほぼ同じでした。

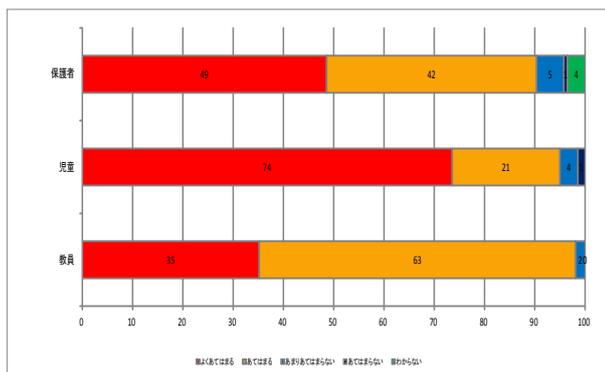
多大なご協力をいただいている保護者の方による読み聞かせの会、高学年から低学年への児童間の読み聞かせ会は、本への興味・関心を高めるだけでなく、さまざまな人との交流の場として有意義なものとなっています。

読書量(ページ数)の達成率は各学年80%を超えていますが、読書への意欲、読書量には個人差も大きく、読書の内容や質は単にページ数だけでは計れないところもあり、これからもさまざまな働きかけの手立てを工夫してまいります。

年4回の詩の集会を柱とした詩の創作活動や音読発表への取組も、児童の想像力や表現力を育てるよい機会となっており、これからも継続してまいります。

一方で、言葉遣いや語彙、日常生活で適切に自分の思いや考えを言葉で伝えることには、アンケートの自由記述でもご意見をいただいております。学力調査の結果からも「問題の趣旨を正確に把握し読み解く力」「自身の言葉で説明する表現力」を本校の課題として捉えており、授業の改善と併せて、豊かな心と言葉の力を育む環境づくりに取り組んでまいります。

重点目標3：互いに認め合い、思いやる人間関係を育てる



アンケートの肯定的評価は保護者91%、児童94%で昨年度とほぼ同様の結果でした。縦割り班活動や保幼小の交流など、異年齢間の交流活動の継続や、保護者・地域の皆様による環境が、上級生が下級生を優しく世話する、下級生が上級生にあこがれと目標をもつという、本校のよき文化を保ち続ける大きな力となっていると考えられます。

また、本校では「進んで参加する子、認め合う仲間」という研究テーマのもと、学級活動の授業を中心に、児童が互いの思いや考え、立場を認め合える集団づくりに取

り組んできました。2年間の取組を経て、話し合いによる合意形成の仕方が少しずつ定着してきました。互いに認め合い、思いやる人間関係を育み、維持していくために、これからも日々のたゆまぬ取組の継続と改善をしてまいります。

2 重点目標以外の自己評価における達成状況及び達成のための取組状況

保護者アンケートでは、全18項目中、「わかりやすく楽しい授業」「道徳教育」「ボランティア活動」の89%、「人権の尊重」の87%、「コンピュータや図書室の活用」の83%と、5項目で肯定的評価が90%を下回りました。他項目に比べ数値が低くなっているこの5項目については、昨年度までも同様な結果が続いており、本校の引き続きの課題としてとらえています。

道徳性、人権の尊重につきましては、授業や日常の指導のほか、トラブル等への適切な対応の積み重ねが必要と考えています。これからも引き続き全職員の共通理解のもと、児童に寄り添ったきめ細かな指導に努めてまいります。また、コンピュータの活用に関しては、パソコン室のほか、区の取組モデル校としてタブレットPC60台を整備していただき、高学年を中心に比較的高い頻度で活用しています。低学年からの発達段階に応じた計画的な活用が今後の課題と考えています。

児童アンケートでは、「授業の内容がよくわかる」「先生は悩みなどについて話しやすい」「学校の約束を守っている」の項目が、昨年度に比べて3～6ポイント増えました。今後も児童が落ち着いて達成感のある学校生活を送れるよう、指導内容や方法の維持・向上に努めてまいります。

アンケートの自由記述欄では、多くの励ましや肯定的なご意見をいただいた一方で、改善意見も頂戴しました。これまで行ってきた行事等の内容・質の維持・向上を願うお声も多く寄せられました。学習指導要領の改訂に伴う授業時数の増加、猛暑や感染症など不慮の状況への対応など、新たに考慮しなくてはならない事項もあり、見直しを要するものが出てきています。いただいた意見を真摯に受けとめながら、児童にとって何が大切かを最優先して、できる限りの改善策を考えてまいります。今後ともご理解とご協力をお願いいたします。

3 今後の改善方策

アンケート結果を踏まえ、今後の改善のための方策として、以下のことに取り組んでいきます。

○学力の確実な定着のために

児童の読み解く力、説明する力を伸ばすための授業の改善を研修のテーマとして全教員で取り組むほか、3年生以上の算数少数指導やICT機器を活用した授業、放課後補習の実施など、引き続き個に応じた指導の充実に努め、基礎的基本的学力の確実な定着を図ります。

○体力と技能の向上のために

猛暑対策や感染症の流行防止など、児童の健康と安全に十分配慮した指導計画の改善、外部講師やアスリートの活用などを通して、授業や行事、マイスクールスポーツへの取組など、指導内容と方法の充実に努め、児童の意欲を引き出し、体力と技能のさらなる向上を図ります。

○児童の豊かな心を育て、よりよい人間関係を育むために

道徳の授業改善のほか、各教科等で児童同士が話し合う場を意図的に取り入れ、認め合い、協力し合える関係の向上を図るとともに、全職員が情報共有と共通理解のもとで、保護者や関係機関と連携しながら、児童に寄り添った指導と対応で、いじめ等の未然防止と早期解決に努めます。